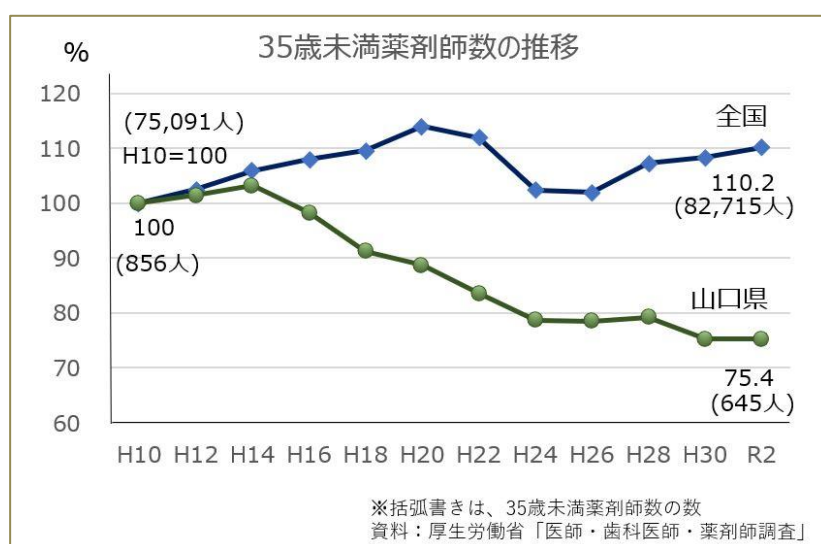


薬剤師の需給状況調査結果について

1 調査の背景・目的

- ・下図のとおり、山口県の若手薬剤師は減少傾向にあり、薬学的な健康サポートや在宅医療に対応するための必要な薬剤師を将来にわたって確保するため、今後の薬剤師のあり方の検討が必要
- ・そのため、県内薬剤師（薬局・病院）の不足状況や地域偏在、業種偏在、離職状況、需要・供給状況の詳細や将来的な予測について、山口東京理科大学薬学部下川教授に委託して、調査を実施

(図：山口県の若手薬剤師数の推移)



2 調査方法

○薬剤師の需要推計

薬局薬剤師	病院薬剤師	その他の薬剤師
<ul style="list-style-type: none"> ◆薬機法で定められた最低必要数から推計 ◆上記に加え、居宅等での調剤業務を考慮した必要数の推計 	<ul style="list-style-type: none"> ◆薬剤師一人当たりの入院患者数（全国水準）に基づき推計 	一般診療所、介護保険施設、大学、医薬品関係企業、行政等の薬剤師数を推計

○薬剤師の供給推計

- ・薬剤師届等の統計値や、薬局、病院、学生のアンケート結果をもとに、県内外への異動や、山口東京理科大学卒業生等による影響を考慮し計算。

3 調査結果（確報値）

○現在

病院と薬局間、二次医療圏間の薬剤師の偏在を無視すれば、需給均衡

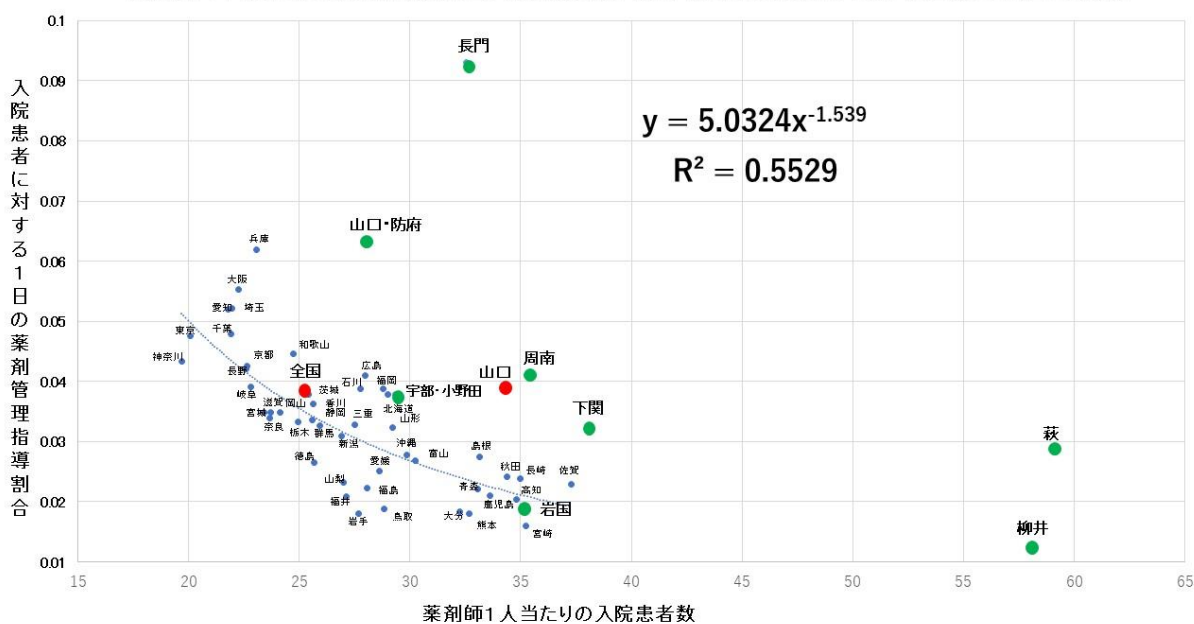
- ・ 薬局薬剤師：長門、萩は慢性的な不足。それ以外は充足又は均衡
- ・ 病院薬剤師：すべての二次医療圏で不足。特に、萩、柳井が著しく不足

		2008年	2010年	2012年	2014年	2016年	2018年
需要		2,891	2,977	3,053	3,197	3,232	3,274
供給 (薬剤師届数)	勤務薬剤師数	2,891	2,916	3,032	3,091	3,236	3,294
	69歳までの薬剤師数(退職者含む。)	2,851	2,863	2,949	3,013	3,136	3,153
	79歳までの薬剤師数(退職者含む。)	2,980	2,999	3,096	3,169	3,309	3,378
勤務薬剤師数(供給)－需要		0	-61	-21	-106	4	20

2008年から2018年までの二次医療圏ごとの薬局薬剤師数の需給状況

地域		2008年	2010年	2012年	2014年	2016年	2018年
二次医療圏	岩国	不足傾向	不足	不足傾向	均衡	充足	均衡
	柳井	不足傾向	不足傾向	均衡	不足傾向	充足	充足
	周南	充足	充足	充足	充足	充足	充足
	山口・防府	充足	不足傾向	均衡	均衡	充足	充足
	宇部・小野田	充足	充足	充足	充足	充足	充足
	下関	均衡	均衡	均衡	不足傾向	充足	充足
	長門	非常に不足	不足	不足	非常に不足	非常に不足	不足
	萩	不足傾向	非常に不足	不足	不足	不足	不足傾向
山口県全体	均衡	均衡	均衡	均衡	充足	充足	

薬剤師1人あたりの入院患者数と入院患者数に対する1日の薬剤管理指導回数の割合の関係

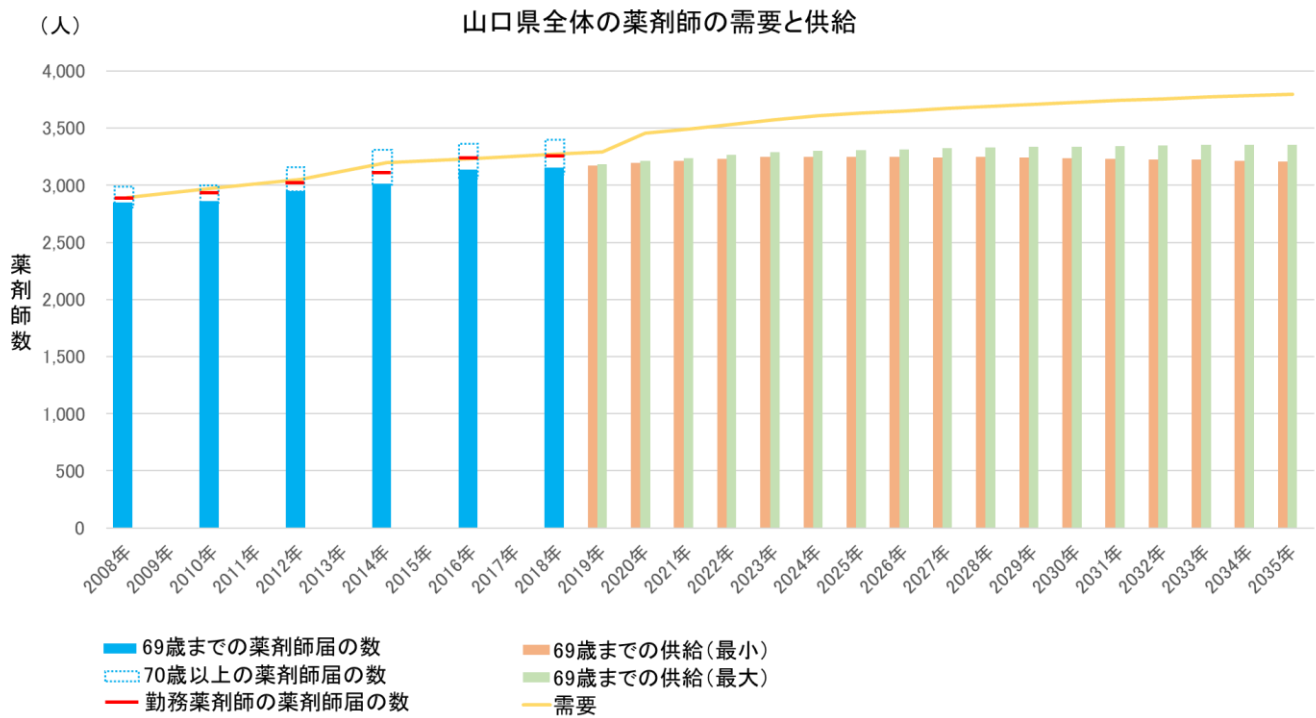


○将来予測

需要：今後、薬局での在宅医療への対応や病院での入院患者に対する薬剤管理指導件数の増加に伴い、増加

供給：今後新たに薬剤師となる者と退職・死亡者の数との関係から、2024年頃から横ばい、2034年頃から減少と推定

⇒ 今後、本県における薬剤師不足の深刻化が予測
(2035年時点で、250~400人が不足)



山口県全体の今後の薬剤師の需給関係

年	需要	供給(70歳未満)		供給-需要		供給-需要+130	
		最小値	最大値	供給最小値の場合	供給最大値の場合	供給最小値の場合	供給最大値の場合
2019年	3290	3,174	3,183	-116	-107	14	23
2020年	3454	3,193	3,211	-261	-243	-131	-113
2021年	3494	3,211	3,237	-283	-257	-153	-127
2022年	3534	3,229	3,264	-305	-270	-175	-140
2023年	3574	3,248	3,291	-326	-283	-196	-153
2024年	3608	3,252	3,303	-356	-304	-226	-174
2025年	3632	3,257	3,317	-375	-315	-245	-185
2026年	3651	3,261	3,330	-390	-321	-260	-191
2027年	3671	3,266	3,343	-405	-327	-275	-197
2028年	3690	3,271	3,357	-419	-333	-289	-203
2029年	3709	3,272	3,366	-437	-343	-307	-213
2030年	3728	3,271	3,373	-458	-355	-328	-225
2031年	3742	3,272	3,382	-471	-360	-341	-230
2032年	3757	3,273	3,392	-483	-364	-353	-234
2033年	3771	3,275	3,402	-496	-369	-366	-239
2034年	3785	3,271	3,407	-513	-378	-383	-248
2035年	3799	3,268	3,412	-530	-387	-400	-257

4 結論

今後、山口県において薬剤師不足による医療の質の低下を招かないような対策が必要

- ① 薬剤師の県内の地域偏在対策
- ② 薬剤師の薬局・病院間の偏在対策
- ③ 山口県へ若手薬剤師を誘引する対策 等

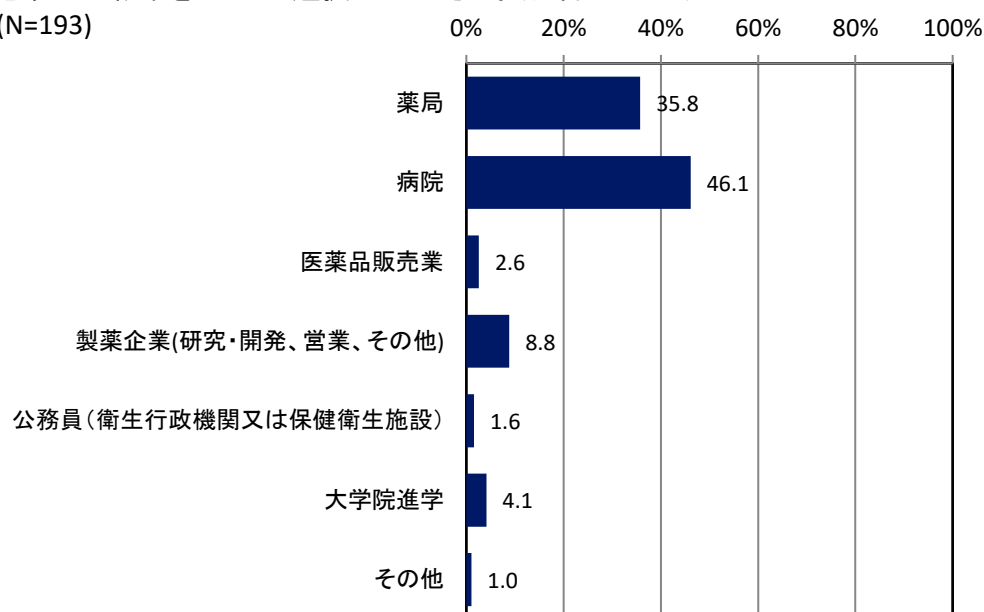
<以下参考：山口東京理科大学薬学生へのアンケート結果（抜粋）>

○対象者数：3年生138人、4年生103人

○回答者数：193人（回答率：80.1%）

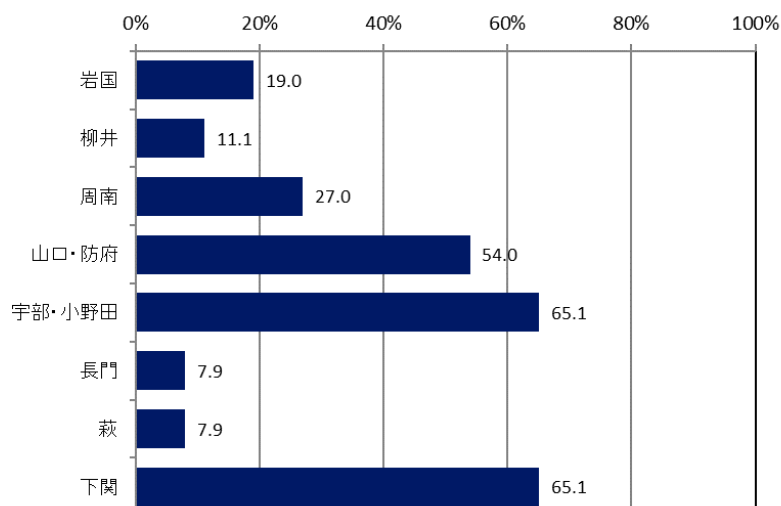
【Q2】あなたは本学を卒業後、どのような職業に就きたいと考えていますか。はっきり決まっていない場合でも現在最も第1希望と思われる職業を1つだけ選択してください。（お答えは1つ）

(N=193)



【Q6】山口県のどの地域(二次医療圏)で働きたい又は働いてもよいと思いますか。該当する地域をすべて選択してください。図を見て回答してください。（お答えはいくつでも）

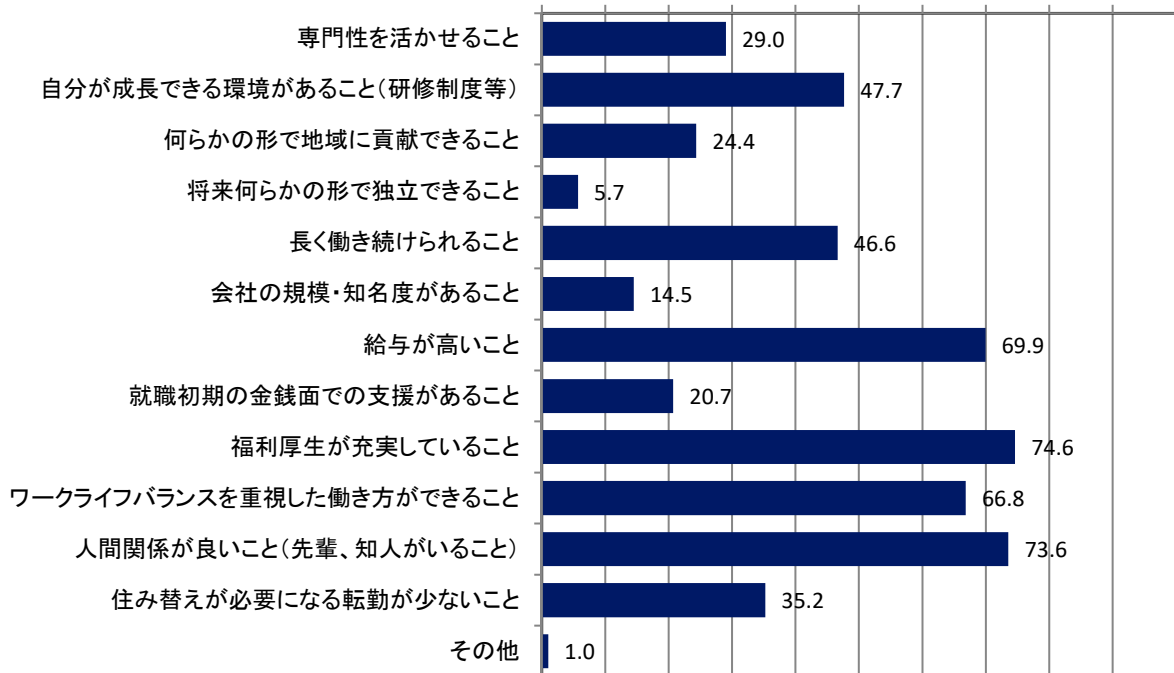
(N=63)



【Q8】あなたが就職先を検討するにあたって地域以外に重要視することは何ですか。該当する項目をすべて選択してください。(お答えはいくつでも)

(N=193)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



上段はN数、下段は%				
Q4 あなたは、本学卒業後又は大学院修了後、どの地域で働きたいと思いますか。(お答えは1つ)				
Q1 あなたの出身高校の所在する地域はどこですか。(お答えは1つ)	全体	できれば山口県で働きたい	できれば他の都道府県で働きたい	特に勤務場所の希望はない
山口県	53 100.0	25 47.2	17 32.1	11 20.8
山口県以外の中国地方	18 100.0	1 5.6	14 77.8	3 16.7
四国地方	19 100.0	0 -	16 84.2	3 15.8
九州地方	73 100.0	0 -	61 83.6	12 16.4
その他の地方	30 100.0	2 6.7	22 73.3	6 20.0

上段はN数、下段は%				
Q7 もし、山口県に薬学部を有する大学がなく他の都道府県にある大学の薬学部の学生だったとしたら、あなたはどこで働きたいと思うと思いますか。(お答えは1つ)				
Q4 あなたは、本学卒業後又は大学院修了後、どの地域で働きたいと思いますか。(お答えは1つ)	全体	できれば山口県で働きたいと思うだろう	できれば他の都道府県で働きたいと思うだろう	特に勤務場所の希望はないと思うだろう
できれば山口県で働きたい	28 100.0	18 64.3	6 21.4	4 14.3
できれば他の都道府県で働きたい	130 100.0	0 -	124 95.4	6 4.6
特に勤務場所の希望はない	35 100.0	0 -	9 25.7	26 74.3